



能勢高校ニュースレター

第49号 H.23. 5月発行

いつの間にか木々の緑が濃くなり、雨の日が続いて田んぼに水が張られ、もうすぐ梅雨入りの気配です。ニュースレター5月号をお届けします。

小中高一貫教育総会で卒業生の小林朋子さんが発表しました

4月25日(月)、浄るりシアター小ホールにおいて、恒例の能勢町小中高一貫教育総会が行われました。この総会は、本校と能勢町内の小学校、中学校の全教員が集まり、今年度の一貫教育の取組み等について確認するとともに、教員間の交流を通じ、相互の理解を深めるものとして行われています。

また、この春本校を卒業した生徒に高校時代の思い出や能勢高校の魅力などについて話をしてもらうことにより、小中高一貫教育の大きな成果として共有するものとしています。今回は、歌垣小学校・東中学校出身の姫路獨協大学医療保健学部1回生の小林朋子さんと久佐々小学校・西中学校出身の和歌山大学観光学部1回生の松田桃子さんをお願いしました。

小林さんは、中学生の時、学校を休みがちのところ、養護教諭の先生に励まされ、高校(能勢高校)に進学することができたこと。高校では、大学進学への焦りと自信のなさなどから、心が不安定になった時、保健室で先生方から優しく見守ってもらえたこと。このような先生方との出会いから、将来、自ら子どもたちを支え、励ましてあげることができるよう、養護教諭をめざし大学に進学したことについて力強く話してくれました。

また、松田さんは、都合により、会場に来て発表することができませんでしたので、事前に書いた原稿を代読してもらいました。「農業クラブの意見発表会、生徒会や学校行事に積極的に参加できた経験を通じ、能勢高校の田舎の少人数制の学校というマイナスイメージすべてが本当はプラスの要素であったことや、能勢高校だからできることがたくさんあることに気付いたこと。」がしっかりと伝わってきました。さらに、特別にお越しいただいた松田さんのお父さんからは、子どもの希望をかなえてくれた、能勢高校の先生方は、まさに職人であるとの賞賛の言葉をもらいました。

2人の卒業生の発表を通じ、小中高一貫教育の成果を確認するとともに、小中高一貫教育の最終段階でもある本校の責任の大きさをあらためて感じました。



発表中の小林朋子さん

姫路獨協大学 医療保健学部 こども保健学科 1回生 小林朋子さんの発表内容

実は私は、小学校・中学校とクラス環境になじめず、あまり学校に行けませんでした。学校に行こうとすると息が苦しくなり、家で倒れてしまう事も多々ありました。そのうち、勉強も手がつかなくなり、授業にも全くついていけなくなりました。基礎となる小学校の勉強が出来ていませんでしたから、中学校での成績はひどいものでした。

中学校3年生になり、周りのみんなは高校進学を考えていましたが、私は正直、高校に行きたくありませんでした。特に能勢高校だけには、絶対に行きたくないと考えていました。なぜなら、小学校・中学校と一緒にだった人たちの多くが、能勢高校への進学を考えていたからです。「能勢高校に行ったら、またいじめられる・・・」そんな思いがずっと消えませんでした。それに、学力面でも合格できるかどうかとても不安でしたし、合格できたとしても進級できるかどうかと、不安は尽きませんでした。そんな私を励ましてくださったのは、保健室の舟木先生でした。舟木先生が「高校に行ったら、また世界が変わるよ。あなたなら大丈夫。」と言ってくくださったおかげで、私は能勢高校に進学しようと決意しました。

高校に進学してからは驚くほど環境が変わり、私にもたくさんの友達ができました。友達ができたおかげで、生まれて初めて学校が楽しいと感じるようになり、勉強も進んでするようになりました。しかし、大学への進学を考えるようになった時、学力の壁にぶちあたりました。受けた模試は、どれも合格可能性の低いE判定でした。特に中学校での学習内容が基礎となる、英語と数学の成績は最悪でした。この時に初めて、小学校・中学校での勉強の大切さを知りました。それから、水嶋先生と東先生に協力していただき中学校の勉強からもう一度やり直すことにしました。朝早くから、放課後遅くまでマンツーマンで教えていただきました。ですが、いくら勉強してもなかなか成績は変わらず、私は精神的に追い込まれていきました。焦り・不安・憤り。辛くて辛くて・・・自分の夢も見失い、今生きていることにも不安を抱いてしまい、大学進学を諦めようとも思いました。しかし、そんな私を助けてくださったのも、保健室の元田先生でした。

教室に入りたくない時や、しんどい時、私はいつも保健室にいました。保健室の先生は、そんな私をいつも優しく見守ってくださいました。今までお世話になった保健室の先生に恩返しをしたい。そう思い、私は養護教諭になることを決意しました。そして、それまで以上に勉学に励み、3年生の秋には無事に姫路獨協大学への進学を勝ち取ることができました。今は、とても素敵な仲間達に囲まれて、毎日楽しい大学生活を送っています。

全く勉強が出来ない私でしたが、今はこうして大学生になれました。だから能勢町の後輩達も、勉強が出来ないからといって夢を諦めないでほしいと思います。どんどん色々な事にチャレンジして、前へ前へと進んでいってください。そういう意味で、「出来ない子はいない」と私は確信しています。

将来は、今までの自分の経験をいかし、子どもたちを支え励ましてあげることのできる養護教諭になりたいです。

和歌山大学 観光学部 1回生 松田桃子さんの発表内容

私は能勢高校に進学するときに、能勢西中学校生ではあったのですが、実は小論文と面接による中高一貫の入試ではなく総合学科入試を受けて入学しました。中学生の頃に私が目指していた高校は、能勢高校ではありませんでした。そういった訳で行きたい高校に進学するために自分なりに頑張っていました。けれども、受験間近にその高校に合格するのは難しいと言われてしまいました。「その高校に行けないのなら」という思いで、家からも近く海外研修や留学生受け入れの制度も整っている能勢高校に進学することを決めました。

能勢高校に入学した私は、柔道部マネージャーとして柔道部に所属しました。私にとって能勢高校の柔道部に入ったことが、人生を大きく変えるきっかけになったと思います。柔道部の顧問の先生が、大学進学に対してあまり積極的ではなかった私に、私に合った大学を進めてくださったりして、熱心にアドバイスをしてくださいました。その先生のおかげで、その後農業クラブに入って意見発表会などの行事に参加したり、生徒会長に立候補したり、学校行事に積極的に取り組むなど、私の中で「進学できる自分」に近づこうとする意欲が湧いてきました。大学受験が近づいてきて準備をしていた時には、顧問の先生をはじめ、多くの先生が私のために時間を割いていただき、先生方にはたいへんお世話になりました。そのおかげで、私は無事に和歌山大学の観光学部に合格することができました。

能勢高校で私が学んだことは沢山あります。正直なところ、能勢高校に入学した当初は能勢高校にあまり期待していませんでした。田舎の少人数制度で、小学校からほとんど変わらないメンバーでは、中学校と同じような三年間になるのだらうと思っていました。しかし、実際に能勢高生になって、三年間を過ごす過去に能勢高校のマイナスイメージがすべてプラスの要素であることに気が付きました。田舎であることで、能勢高校特有の農場での学習ができ、現在注目されている「生物多様性」について深く学ぶことができました。少人数制であることで、先生方が一人ひとりの生徒に対して、手厚く一生懸命に付き添ってくださいました。能勢高校は、他の学校には無いものをたくさん持っている学校だと思います。

私の大学生活はまだ始まったばかりですので、観光学の知識などはまだ全く身につけていませんし、将来の自分の夢もまだ明確ではありません。ですが、もしも将来観光に携わるような仕事に就いたときには、なんらかの形で能勢町の町おこしに貢献できればと考えています。観光学から広くいろいろなことを学べるように頑張っていきたいと思います。

後輩たちには、「自分は能勢高生だから・・・」とって勉強をあきらめがちな人が多いように思いますが、「あきらめずに勉強に励んでほしい。」ということと、「勉強というのは授業や塾で教えてもらうようなことだけではない。」ということをお伝えたいです。高校の学力レベルは関係ありません。農場や、校外行事、少人数のため比較的行いやすい生徒会活動など、「能勢高校だからできること」というのが沢山あります。それに一生懸命取り組めば、他のどんなに学力レベルの高い学校の生徒とも十分に張り合えるだけの武器を、自分が身につけることとなります。面倒に思わず先生方に頼ったり、柔軟な考えを持ったりして、いろいろな角度から自分の将来の道を見つけてほしいと思います。

平成 23 年度 体育祭を開催します

右記の通り体育祭を開催いたします。本年も3学年にまたがる縦割りブロック制で競技を競います。また恒例の応援合戦の他、PTA参加の綱引きも予定されています。保護者・地域の皆さまの多くのご参加をお待ちしております。日時等は下記、プログラムは右記の通りです。

- 日 時 平成23年 6月3日(金) 午前9時00分～午後3時00分(予定)
雨天順延 6月6日(月) 再順延 6月7日(火)
- 場 所 本校グラウンド

プログラム

- | | | | | |
|-----------|-----------------|-----------|-----------------------|---------|
| 1. 9:00 | 入場行進 | | 12:40 | 予鈴 |
| 2. 9:20 | 開会式・選手宣誓 | 12. 12:50 | 応援合戦 | |
| 3. 9:25 | 合同体操(ラジオ体操) | 13. 13:20 | 大縄跳び | |
| 4. 9:30 | クラス対抗リレー(予選1) | 14. 13:40 | クラス対抗リレー(決勝) | |
| 5. 9:40 | 障害物・借り物リレー | 15. 13:50 | しっぽとり(小高交流) | |
| 6. 9:50 | 棒引き | 16. 14:00 | 先生vs生徒(男女混合リレー) | |
| 7. 10:10 | クラス対抗リレー(予選2) | 17. 14:10 | 綱引き [PTA・小学生参加競技] | |
| | 休憩(給水、トイレ、パン販売) | 18. 14:30 | ブロック対抗リレー | |
| 8. 10:40 | クラブ対抗リレー・障害物リレー | 19. 14:45 | 表彰式・閉会式 | |
| 9. 10:55 | 学年対抗リレー | | 15:00 | 後片付け HR |
| | エール交換 | | *競技の開始時刻は前後することがあります。 | |
| 10. 11:15 | 棒倒し | | | |
| 11. 11:30 | 10人11脚 | | | |
| | 11:40 午前終了:昼休み | | | |

みどり丘幼稚園との交流

昨年度、家庭科部は、みどり丘幼稚園との交流を以下のように3回行いました。

	交流日	交 流 内 容
1	7月11日	年長児のお泊り保育での交流と「三白三黒紙芝居」の発表
2	11月10日	グリーンホームの園児たちに「環境オリジナル紙芝居」の発表
3	3月23日	保護者と一緒に「食物連鎖」と「発酵食品」について発表

家庭科部員に第3回の交流について書いてもらった感想を紹介します。

『私達、家庭科部は3月23日に、みどり丘幼稚園で「みどり会」の保護者4名の方々と共同で「食物連鎖」と「発酵食品」について発表しました。保護者の方々とのコラボレーションは初めてなので、打ち合わせの時は、戸惑いがありました。しかし、2回の打ち合わせとリハーサルを行ううちに少しは気持ちもほぐれ、準備についてはしっかりできたと思います。

当日は、卒園した年長さん以外、全員の園児(能勢高校より人数は多かったです)の前での発表だと聞き、発表前は緊張で一杯でした。でも、園児の皆さんはとても真剣に且つ楽しそうに聞いてくれたので、次第に緊張は無くなり楽しさに変わっていきました。

クイズを出すとき答えてくれるか心配だったのですが、園児のみんなは口々に大きな声で答えてくれて



食物連鎖について説明しています

よかったです。たとえば、私が「せーの」と言うと「大豆」や「ヨーグルト」と元気よく声をそろえて言ってくれました。また、最後に「発酵食品についてわかった人」と聞くと「はい」と元気よく全員が手をあげてくれたので、とても嬉しくて発表して良かったと思いました。

このような経験をするのはなかなかないと思うので、発表する機会を与えてくださった方々にとっても感謝いたします。今年も、7月の夏のお泊り会での交流を予定しています。何を発表するかは未定ですが、次回もしっかりと準備をして意義のある交流にしたいと考えています。』